

Eureka VI

六年制通信 No. 29 平成31年1月18日(金)号

期待値のその先へ

ゆるキャラという、一種の社会現象はいつ始まったのでしょうかね。ふなっしーは梨の妖精なんだそうですが、元気よくジャンプしている姿を少し前までテレビでよく観た気がします。最近観ないね。そういえば、ふなっしーが大好きな弁護士さんがいましたが、あの人も最近観ないな。あと、納豆のゆるキャラでしたっけ、急に背が伸びるやつ。ああいうのがどうして人気があるのか全く理解できない。ゆるキャラ選手権なるものがあって各地の、他にもっと考えられなかったのかと思われる、失敗作にしか見えない不気味な集団を大真面目で応援している大人たちが私には不気味です。

マスコットの語源は「魔女」なんですけど、今では幸運をもたらす人形ということになっていますが、これからは斬新なゆるキャラが生まれるのでしょうか。

要するに私はああいうゆるキャラに全く関心がなかったのですが、この間ついうっかりNHKの「プロフェッショナル」がくまモンの特集をしているのを観てしまいまして、実はいたく感動したのです。今でもくまモンの姿かたちには不気味さしか感じませんが、彼の地方公務員（ということになっているらしい）としてのプロ根性に感心したのです。熊本はもちろんのこと全国各地でこれほど愛されているゆるキャラもないでしょうが、それにはそれだけの働きがあったということも理解できました。印象的だったのはハンドボールでしたかな、投げるシーンのスチール撮影をしているとき、担当者もカメラマンもOKを出しているのに、くまモンだけがもう一度やりたいと。その後何度もやり直し、そのつど完成度が上がっていくのですね。私は非常に感心しました。仕事に対して誠実だし、グッドでは満足せずベターなものを追求しようとする姿勢は私たちも見習わなければいけないと思いました。

彼の仕事には「期待値のその先へ」という感覚があります。これは大変重要なことです。君たちは「自己評価」とか「他者評価」とか、耳にしたことがありますか。私たちは自分のことは自分が一番わかっていると思いがちですが、実は案外わかっていないことがあります。自分ではこういう仕事には向いていないと思っても、周りからは当然できる、むしろふさわしいと考えられている場合があるのです。自己評価と他者評価は一致しないことがあるわけですね。自分以上に自分の力（適性）を他者が評価している場合があるということですが、周りからできると思われていることは恐らくできます。やがて君たちも仕事を持つようになると、きっと理解してくれると思います。勉強でも同じかな。例えば君が数学ができると思われているとしたら、好き嫌いは別にして、きっと数学はできます。

ただ、他者評価によって「できる」と思われることについては、当然ながら他者の期待値も上がっているというオマケがついているのですね。「あいつならできる」というのが、いつの間にか「あいつならちゃんとできる」とか「あいつなら立派にやり遂げる」とかね、仕事のハードルが上がっているものなのです。ただできるだけでは、期待外れと言われてしまうのですね。何だか理不尽ですけど。そして、くまモンは期待値を越える活躍をします。そこが素晴らしい。くまモンなら50mを走れるだろうと50m先にゴールテープを張って待っていると、自分で70m先までゴールをのばして駆け抜けるような感じです。ただ、私は最初から彼がそういった働きができたとは思いません。初めは与えられた役割をこなしていたように思います。しかし、やがて期待値を認識するようになったのではないのでしょうか。そこで嫌がらず、それならそれを越えてやろうと考えたのだと推測します。君たちも自分に寄せられている周りの期待値を認識してほしいと思います。そして期待値の先へと進んでください。

今週のおすすめ

・キケロー 『老年について（中務哲郎訳）』（岩波文庫）

大カトー（マルクス・ポルキウス・カトー）と若い二人（スキーピオーとラエリウス）との対話ということになっていますが、84歳の大カトーが老年とはどのようなものかということ若く二人に語って聴かせるといった内容です。もちろん若い二人は老年とは惨めなものであると思っているわけです。

老年が惨めなものであると思われる理由を大カトーは四つ挙げています。

1. 老年は公の活動から遠ざける。
2. 老年は肉体を弱くする。
3. 老年はほとんどすべての快樂を奪う。
4. 老年は死から遠く離れていない。

これらに対し、古今の多くの事例を出しながら一つ一つ反論していくのですが、非常に説得力があって、今の私には勇気づけられる一冊でした。

中でも、記憶力は衰えるかという問題に、その鍛錬を怠った場合は確かにそうだが熱意と勤勉が持続しさえすれば老人にも知力とはどまると答えています。私も老年、というより誰の目にもはっきり老人に見える先生の、驚くべき記憶力を実際にこの目で見ています。プラトンも80歳で書き物の途中で亡くなったのでした。熱意と勤勉の基礎には、君たちがいつも言われている「辛抱強く学ぶ意欲」の醸成陶冶があるはず。私も心穏やかに老年を迎えられるように頑張らなくちゃいけない。

ついでに、結城昌治のショートショート全集を読んでいたら、彼も75歳の大学生だったのだから…といった記述がありました。今だったら75歳なら、まだお若いのにと言われますよね。昭和53年に出版された本ですから、当時の感覚はそういうものだったのしょうね。ということは、40年前には60歳くらいでもう十分な老年かあ。当時は定年退職も55歳が普通でしたが、皆さんの頃にはどうなっているのでしょうか。

BGMは さだまさしの もうひとつの雨やどり でした…。